

飯田市であった(四方, 2001)。松川町はそれより10 kmほど北に位置する。近年、伊那谷においてはツマグロヒョウモンやクロコノマチョウ、アオマツムシなどの分布北上が著しいが、本種もかなりのスピードで北上している種の一つだと思われる。今後の分布変化に注目したい。

松川町でのラミーカミキリの生息を教えていただき、標本を採集して筆者に届けてくださった、松川町の大田秀子さんにお礼申し上げます。

引用文献

四方圭一郎・井原道夫, 2000, 長野県伊那谷におけるラミーカミキリの分布状況. 伊那谷自然史論集, 1, 35-36.

四方圭一郎, 飯田市におけるラミーカミキリの追加記録. 伊那谷自然史論集, 2, 68.

吉沢尚広, 1992, 長野県におけるラミーカミキリの初採集記録. 月刊むし, 261, 37-38.
(しかた けいいちろう/飯田市美術館)

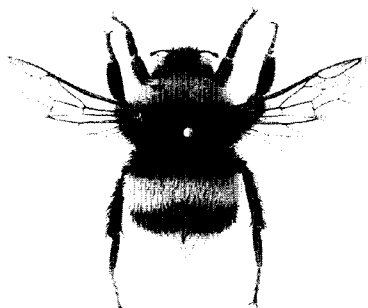
セイヨウオオマルハナバチを 飯田市で採集

四方 圭一郎

セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* (Linnaeus) は、1991年よりトマトの受粉用にオランダやベルギーから輸入された昆虫である。1996年には北海道で自然巣が見つかり、日本で野生化していることが確実となった(鷺谷・鈴木ほか, 1997)。

長野県においては、2001年5月1日に諏訪市蓼ノ海での働き蜂1頭の記録が報告されている(保全生態学研究会ホームページ内のセイヨウオオマルハナバチの最新目撃情報*)。

本種を飯田市で採集したので報告する。



1 ♀, 飯田市追手町(標高500m), 9. VIII. 2002. 筆者採集・飯田市美術館保管。

飯田市美術館の庭で採集した。採集時は、生きていたがうまく飛べないらしく、地面付近を旋回していた。鳥などにおそわれた可能性もあるが、目で見限り外傷は確認されなかった。

本種の記録などについてご教示くださった、長野県自然保護研究所の須賀丈博士にお礼申し上げます。

引用文献および注

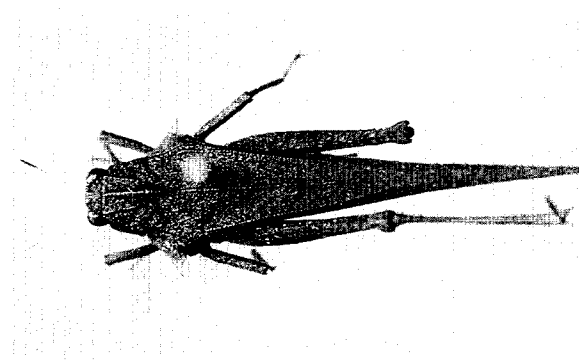
鷺谷いづみ・鈴木和雄・加藤真・小野正人, 1997, マルハナバチハンドブック. 49p. 文一総合出版, 東京.

*http://www003.upp.so-net.ne.jp/consecol/japanese/maruhana/maruhana_info.html
(しかた けいいちろう/飯田市美術館)

伊那谷でのトゲヒシバツタの記録

小林 正明

トゲヒシバツタ *Crietettix japonicus* は暖地では普通種で湿地によく見られる。県下では記録がなかったが、高森町で採集したので記録しておきたい。



1 ♀, 高森町湯が洞(標高690m), 2002年9月22日, 小林正明採集。

同地は湯が洞の温泉近くに新しくできた農道沿いの小さな湿地で、ガマなどの水生植物が生えている。またハッチョウトンボも生息している。湿地の中はイノシシと思われる動物に攪拌されていた。この場所では本種を以前に目撃したことがあったので、確実な記録とするために採集を試みた結果、記録した。

(こばやし まさあき/〒395-0001 飯田市座光寺宮崎2155)